粕谷和夫の観察日記より。９月２日、八王子・高月水田で９月の野鳥定期カウント。休耕田の水溜まりにチュウサギが集まっていました。ダイサギとよく似ていますが、撮った写真を拡大して、口角（くちばしの切れ込み）が目の真下で止まっていることを確かめてチュウサギと判定します。イナゴが多い田んぼはサギたちのレストランです。

紅葉台 新聞



第２６０号
２０２６年
１１月１４日
発行人：関谷　孝

熊の出没から考える　日本の環境の今

小池伸介（東京農工大学・教授）



８月２９日（土）生協の環境学習会で熊問題を学びました。最近問題になっている熊の出没ですが、ニュースでは、「熊は怖い」「すぐに処分しろ」という印象が強く熊の実態や日本社会の抱える問題まで深く考えることがありません。下記の３点についての話を紹介します。

１．　2025 年は何が起きたのか

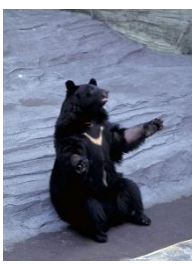


日本には大きく分けて 200 キロを超えるヒグマ（北海道に生息）とツキノワグマ 50 キロ位（本州・四国に生息）の 2 種類がいます。ここではツキノワグマ（略・熊）に絞って解説します。熊は寿命が 20 年ほど。約 2.5 年に 1 回繁殖をします。特に熊の被害は、昨年報道されているだけで 232 人が怪我、11 名が死亡しました。過去最大の熊の捕獲数 12,480 頭でした。特に 2025 年は熊が街中に出没し、ニュースでも話題になりました。

その理由については、主食のブナ科の果実(どんぐり)の不作がありますが、**どんぐりは豊作不作の差が大きく広範囲で発生したためです。**ブナの生育に温暖化は特に関係がないとの事でした。1999 年行政による許可捕獲数を決め、その効果が表れたためです。しかし、**熊の分布域の拡大と生息数の増加は大きく、４０年で２倍の分布域が広がっています。**その大きな原因は**過疎高齢化で村から人が消え、耕作放棄地が増えたことによるといいます。**里山に柿の実が残され、熊が人家の近くに現れるようになったことが原因です。

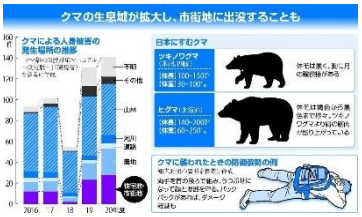
また、最近は情報の肥大化、誤情報が拡散され、生成 AI による動画が拡散されています。熊についての誤った情報が問題を大きくしています。

2. ツキノワグマの実態



ツキノワグマの個体識別は、主に胸の所の白い月の輪の形をした模様で区別しています。それは蜂蜜などを木にぶら下げて立ち上がったときに写真を撮って模様を確認しています。嗅覚や聴覚も犬より優れ、木にも登り、時速５０キロで走ります。身体能力が高く記憶能力が高いので、餌がある場所を知ると何度でも来ます。食べ物を出しておかないことも重要です。秋になると体脂肪をつけ冬眠するため、たくさんの食料となるどんぐりが必要になります。冬眠し、1 年中の栄養をつけるといいます。特にメスは子供を産みます。春先に山菜取りに出かけた人が被害にあうことが多いのは、熊も同じように山菜を食べるからです。これまで登山で襲われることは少ないと言いますが、**一人で登山をしないことです。**襲われるのは一人の時が多いです。**熊の生態を知ることが被害を未然に防ぐ**ことになります。

３．事故を防ぐ　1 番は「熊に遭ったら、どうするか」よりも「熊にどうやったら遭わないで済むか」



を考えることだといいます。音や匂いに敏感な熊は鈴の音または人の話し声やラジオで危険を察し近づかないと言います。またいざとなった時は、熊除けスプレーをかけることです。スプレーの中には唐辛子の成分であるカプサイシンが含まれており、その辛みと痛みを熊が覚えることで人間に近づくと良くないと言うことを学ぶのです。かけ方は、３メートルの至近距離から熊の鼻先に思い切りかけることが有効。また熊がパニックにならないよう人もパニックにならず冷静な対応が求められます。驚いて後ろ向きに逃げるのが 1 番良くないのは、追いかけてくるからです。**ゆっくりと後ずさりをするのが刺激をしない１番の方法**です。また自分の首のところに腕を回し、地面に伏せて被害を最小限にするというやり方もあります。（上記写真）

熊と人間の共存がこれからは求められます。今は熊の数が増えてしまったことと共に食べるものを求め、人間社会に出没することが大きな問題になっています。そのためにも**ゾーニングと言って人と熊の住処を分ける。**そういう取り組みが必要だといいます。今年の夏は八王子にも熊が出没しました。早速、小中学校に鈴を配ったと聞きましたが、それも１つの方法でしょう。しかし私たちも熊の生態をよく知り、それぞれが住み分けでき、諸外国の自然保護からも学び考えていく必要があるのだと思いました。

小池さんは「日本熊ネットワーク」JBN で情報の発信をしています。興味のある方はネット検索をして見てください。

粕谷和夫の観察日記



あちこちで雑草化している**キクイモ**は、今頃が黄色い花が目立ちます。通常はまばらに咲く花が 5 花まとまって咲いていました（９月３日、多摩川河原）。地下には芋ができます。この芋にはデンプンがほとんど含まれず、イヌリンという物質が含まれているためダイエットに有効であるらしいです。10 数年前、河原に常駐していたホームレスの方から掘りたての芋を頂き、家に持ち帰り食べたことが思い出されます。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。